

まとめ(2)

方法論としての可能性:

- 開発目標技術の優先順位の決定において、各指標に対する**客観的**な検討と、指標自体にどのように重きを置くかという**主観的**な判断を分離することが可能。
- 意思決定の記録をアーカイブとして残し、将来の再検討に供することが可能。また、新たな目標技術に対して追加的な評価、順位付けが可能。
- **評価指標の設定**は、専門家と国民(あるいは政府)が慎重な議論を経て決定すべきである。
- 各開発目標技術の**指標別評価**は、その不確かさ範囲も含めて、関係分野の科学者集団によって行われ、公開のアーカイブとして記録されるべきである。科学の発展と共に適宜見直しをすべきである。
- 指標の**重み付け**と開発目標技術の**優先順位付け**は、国民を代表する政府あるいは政府が委嘱する専門分野の科学者を含む委員によって行われるべきであろう。その際、各委員の重み付け結果を公開し、合意形成の議論を**解り易く国民へ示す**ことが望ましい。

本資料は、JST/CRDS環境・エネルギーユニット所属の以下の各フェローの協力を得て作成されました。

鈴木至 関根泰 中村亮二 福田哲也 増田耕一 宮下永

